

龍等、中味許りの至極劣等の彫刻をつけたのもある(尤も土佐神社(高知縣土佐郡一宮村))には龍許りのもあるが此とは到底比較にならない)。斯様な有様では何の爲めにするのか分らない、無論裝飾のつもりであらうが決して飾りにはならない、つぶれさうでないやな感じがする許りである。(大正九年五月二十日稿)

訂正正誤

第五卷第一號第八十一頁、上段第一行から下段第十二行迄、大徳寺三門に關する記事は全部削除する。理由は記録からは大永六年に宗長が再建の爲め柱位を造つておき、其まゝになつてゐたのを、天正十七年に利休が全部あそを造つたを解釋が出来る實物からは其後尙よく研究して見たところ細部に於いて天正らしいところが相當にあるからである。たゞ私に今でも疑問なのは、上層内部に朦朧ながら殘つてゐる古い繪である。其他にも繪に疑はしいところがある。斯様な有様であるから、戻つてあの様な事は私の考が確かり定まる迄、見合せた方がいゝと思ふから削るのである。

正誤表

第五卷第一號第二號へ書た中で、氣の付た點丈けを表にして

おく、まだ見落しもあるだらうが、見つけ次第追々記す事にする

卷の號	頁・段・行	誤	正
五ノ一	七八・上・四	小さい薄い本	小さい二册本
	七九下・一五	其時々を用ひて	其時々を用ひて
	八〇上・二一	深さ一間の外陣	深さ一間の神堂
五ノ二	一四五・上・七	1.5のの長さ	1.5の長さ
	一四五下・六	此は斗線の曲線	此は斗線の曲線
	一四六下・三	三門上下層	三門下層
	一五一・上・二四	遇ま大きが	偶ま大きが
	一五一下・二〇	四方の斗	四方の樞
	一五一下・二三	木割など	木割法などで
	一五四下・二	深い軒を樂に	深い軒を樂に
	一五六上・二	鼻へ一つ斗を	鼻へ斗を一つ

彙報

●帝國學士院授賞式

帝國學士院にては去五月三十日東京美術學校講堂に於て恩賜賞帝國學士院賞、及び桂公府記念賞の授賞式を行ひたるが其中第一

部に於て此光榮に浴せし受賞者左の如し。

恩賜賞

法制史の研究

文學博士 三浦周行

學士院賞

密教發達志

大村西崖

●京都帝國大學第十一回夏期講演會

京都帝國大學にては來八月二日より各種學科の智識普及の爲め第十一回講演會を開催し一般有志の聽講を許す由、其中史學地理學に關係ある科目及科外講演の題目講師は左の如し（申込期限七月二十一日、詳細は京都帝國大學講演會宛照會の事）

最近支那史（自七日至十三日）文學部教授文學博士 矢野仁一

宗教哲學の本質及其根本問題（自二日至六日）文學部教授文學博士 波多野精一

宇宙進化論（自二日至七日）理學部教授理學博士 新城新藏

我國の經濟と海運（自二日至七日）文學部助教授法學士 小島昌太郎

—科外講演—

獨逸民謡論 文學部助教授文學士 成瀬清

繪卷物に於ける自然描寫に就て 同 文學士 澤村專太郎

●京都帝國大學文學部史學科大正九年度

講義題目

史學研究法 每週 二 坂口教授

國史概説（中世及近世）

守護と大名

近世社會政策

明治時代の信仰問題（演習）

古文書學各説及實習

東洋史概説（古代）

支那に關する「アラブ」人記録の研究

漢書西域傳（演習）

東洋史概説（近代）

支那史學史

支那公牘（演習）

近世支那史

支那近世の外國關係

最近世史

世界大戰史

演習 西洋史概説（二部）

伊太利史（一四九二年以後）

地理學通論

地理學各論

地理學實習

演習

人文地理學通論

經濟地理各論

三浦教授

桑原教授

內藤教授

矢野教授

原教授

坂口教授

小川教授

石橋教授

考古學概論

同 實習

東洋考古學(支那)

古代希臘の文化

朝鮮古史(自三國鼎立至新羅末)

朝鮮文藝史

國史概説(古代)

國史地理

史籍解題及講讀

十七世紀英國史

フランク時代史

●京都帝國大學文學部史學科卒業論文

京都帝國大學文學部本年度卒業受驗生の提出せる卒業論文中、史學科及び哲學科文學科中の史學に關係ある題目並に提出者左の如し。

史學科

國史專攻

聖德太子に關する研究

支那史專攻

王安石の經濟政策

東洋史專攻

蒙古史の研究

西洋史專攻

Napoleon 武力の研究

濱田教授

今西助教

喜田講師

中村講師

植村講師

(依託) 橋川 正

(選科) 松浦 嘉三郎

鴛淵 一

(選科) 河原喜太郎

地理學專攻

大阪平野の變遷

哲學科

哲學專攻

批判哲學と歴史哲學(アント哲學への弊見)

教育學專攻

山鹿素行子教育論の根本問題

社會學專攻

婚姻進化の社會學的考察

文學科

國語國文學專攻

竹取物語について

平安朝物語中源氏及びその以後の作物の比較研究

靖齡日記に就いて (考證篇)

日本書紀訓點研究

英文學專攻

Richard Jeffries.

John Walslar.

獨文學專攻

ハインリッヒ、フオン、クナイ

ストの一生と其悲劇

伏見 義夫

村主 岩吉

加藤 仁平

村田 太平

阿蘇 惟紀

宮田 和一郎

吉川 理吉

小中 正晴

(選科) 中島 龍郎

(同) 芥川 潤

(同) 鈴木 三郎

杉山 茂

● 史學研究會

例會 大正九年五月十五日午後一時半より文學部第六教室にて開
催す。

一、歐米旅行談

會員文學博士 原

勝耶君

余は昨秋亞弗利加ケープタウンに寄るや博物館を一見したるが其の陳列品には葡萄牙和蘭兩國が海外發展時代に殘せし歴史的記念物甚多く別して余の興味を惹きたるは其の分類法の一新機軸を示せることにして亞弗利加を本位として之に比較研究の便に供する爲め同種の各國遺品を附加陳列せるこれなり。亦以て参考に値せむ南亞弗利加に於ける蘭英兩國人間種的争は今日尙甚しきものありて之が大學の歴史教授上にも現れ彼のトランスバール大學に於て學生は和蘭語を以てする授業を希望し英語のそれを排斥するが如き最も著しきものとす、こは將來の問題たらむ、アルゼンチンに到りては二三の博物館を觀、英國に渡りてはセイス教授に面晤し獨逸に入りて伯林に淹留すること十一ケ日、伯林大學のテルアリユツク教授にも面會したるが、現今獨逸國內の反英思想は強烈なるものにして書肆店頭に於ても其の著しき實例を見たり。各大學は昔日の如く開講す、戦跡も見物したれども別に特に語るべきことなし、英國博物館にて興味ありしはメソポタミアの發掘品にして次で米國を經由し 朝せり云々。

一、埃及旅行談

會員文學博士

松本文三郎君

右は本誌雜纂欄に掲載せり。

當日會場には松本博士將來の埃及發掘品數十點を陳列し同博士一

一説明せらるゝ所あり、參會者無慮百二十名に達し、頗る盛會なりき講演終了後席を大學本部階上談話室に移し有志茶話會を開きしに出席者三十餘名有益なる談話を交換し午後六時半散會せり。

● 讀史會

例會 去る三月十八日午後六時より學生集會場に於て開催、出席者三浦喜田兩博士西田助教教授桑原中村下川の諸學士其他學生數名あり左の講演ありて九時半散會せり。

一、現代社會運動と唯物史觀との關係 文學士 牧 健二君

先づマルクスの社會主義思想と其の唯物史觀との關係を紹介し其の社會主義の理想論と史觀の現實論との間に横はる矛盾を指摘したる後マルクスがギリシヤ及びローマの歴史より歸納して封建時代の顛覆を生産力の過重なりし爲なりとせざるも吾人は寧ろ封建時代に屈服されむたる町人の勃興したるが爲めなりとすべく彼の主張するが如く生産力と生産關係とによりて社會の歴史が決定せらるべきにあらずと論じたり。

一、若狭國田島浦秦氏文書につきて 文學博士 三浦 周行君
本誌の前號雜纂欄に於て大體紹介しあれば茲に略す。

例會 四月二十九日午後六時より學生集會場に於て開會出席者は杉村少將三浦喜田兩博士西田助教教授魚澤下川桑原岩橋橋川河原源の諸君の外日下入洛中の會員清原貞雄牧野信之助兩氏にて先づ左の講演あり。

一、豊公の朝鮮役に於ける給養問題 陸軍少將 杉村勇次郎君
本誌次號に氏の手稿を載すべき筈なれば之を略せん。

右終つて牧野氏は舊鯖江藩主間部家所藏の新井白石が詮房侯に送りし書翰に就きて白石が正徳二年京都金地院に於て本光國師日記を見たりし時の状況及白石が史料蒐集に努力せし事實を語られ清原學士は其の整理の任にある中御門侯府家所藏の維新當時の文書殊に風聞書に就て説かるゝ所あり中御門經之は岩倉具視の片腕と稱せられし維新の勳功者にして市井の消息を探知せん爲めに探偵を放ち其の通報せし所を録せる風聞書は當時の政治及社會状態を知るの好資料なり云々九時半散會せり。

例會 五月二十日午後六時より學生集會場に於て開催出席者三浦喜田兩博士魚澄中村桑原岩橋島田源の諸君あり講演左の如し。

一、東大寺文書探訪談

文學士 中村 直勝君

四月の初め三浦教授と東大寺所藏の文書約一萬通を調査したるが東大寺々領は諸國に散在し其運上を運ひ來る道程等に關するものありて當時の交通の状態を知るべく又船賃問料等を記せるものありて經濟史の史料として興味多きものあり殊に寺院專屬の職人に關するものゝ中には大工職を三貫文にて讓れる讓狀又平安朝末のものに塗工瓦工の一人一日の手間一升と定めたるものあり一面當時の社會状態を知るの好史料なり又蒙古袭来に關するものゝ中には弘安四年七月朔日蒙古大軍の玄海灘に覆没せし其の前日の祈禱の請書あり亦一種の感興なきに非ず其の外地方の寺領と寺院との關係を物語るもの等ありたり云々

一、加茂眞淵に就て

岩橋小彌太君

眞淵の學術の本領は神道有職故實語學等にあらず彼は寧ろ偉大

なる訓詁家又は歌人を見るべきものなり而して其の訓詁の上に於ける業績も契沖に比して決して大なりといふべからずたゞ彼の歌學説は全く獨創的のものにして最も異彩を放てり彼は和歌を時代の所産として見之を批評し素樸なる奈良朝の文化を謳歌し又詠歌の用心に就ても自然を尙び勇壯を重んじたり國意考に現はれたる彼の國粹論も又彼の歌學説と密接なる關係あり世に彼の思想の由来に就て多くは徂徠の古文辭學派の影響を受けたりとせざども彼の思想は彼の國學研究に得たる所にして徂徠が性惡説を主張し禮樂を以てそれを矯正せんとしたりしに眞淵は人爲を却け自然を重んじ徂徠等と全く相反する説を持したりき云々

一、福原京に就て

文學博士 喜田 貞吉君

最近神戸市史編纂係に於て發見せる神戸附近の條里の地圖の断片により從來福原京の方向が正確に南北の位置をとりたりと解せられしも實は東北方より西南方に向へるものなる事を推定せられ且つ從來其の宮趾が舊淡川の東方に推定せられしも吉記山槐記玉葉等によりて淡川の西方に之を求めざるべからずと斷じ其他淡川の變遷に就ても詳細に論ぜらるゝ所ありたりかくて散會せるは十時なりき。

●支那學會

例會 去る三月二十二日午後六時半より文學部第六教室にて開催關係諸教授卒業生學生三十餘名出席す

一、王安石の時代を論ず

松浦嘉三郎君

王安石の時代に於ける國家の財政状態を見るに眞宗時代より膨脹

の大勢となり内務経費の増加冗官増加契丹への歳幣等にて此の勢は仁宗時代に及びしかば改革の必要は促され居りしなり神宗時代は洵に之を解決し人民を授ふべき機運到達せし時なり、安石即ち官吏登用法、經濟上、軍制上に大改革を加へ、歐陽脩等の消極的なるに反し積極的軍國主義を以て進みしかば人民の自由を無視し民業壓迫の弊も無きにはあらざりし云々

一、劉師培の學

文學士法學士 小島 祐馬君

余が劉師培の名を知りしは國粹學報誌上に其の論著を見たるに在り、彼は揚州の人にして父祖以來學者輩出したる名門の出なり曾祖父劉文淇、祖父劉毓松を経て毓松に壽晉、貴晉、富晉、顯晉の四子あり師培は貴晉の子なりとて其の學界に於ける位置並に學風を論じたり。

例會 五月四日午後六時半より文學部第六教室に開催す出席者二十八人。

一、薛延陀に就いて

鴛淵 一君

第一段に薛延陀の名稱に就いて述べて此部族が薛と延陀の二部の合體せるものにて突厥碑文に見ゆる *Shih* と *Tarhat* とは正しく薛と延陀とに當るべしといふヒルト及ラドロフの説を承認し第二段に於ては其變遷を述べて大業年間の活動より貞觀元年の叛亂貞珠可汗の册立其突厥に代りて北方の廣地を占めて勢を得たる事に及び更に唐との關係を詳述して其貞觀末の滅亡の次第及び其後の状態を述べ最後に附言して其興亡の速かなりし理由を内外の二方面より考察すべきことを述べたり。

一、詞中の口語體 文學博士 鈴木 虎雄君
古く詞中に口語を混ぜしものは說苑中に見ゆる越の歌にして晋宋頃には子夜四時歌の出現し唐には普通の詩に俗語を許すに至れり然れども全く口語のもの、成立せしは宋代にして波古閣の詩集に就て調査すれば全部口語のものは滑稽卑俗のもの多きが、多く又は少く使用せしものは傑作多しとて實例を挙げ尙ほ詞中の口語が曲中の口語と關係多きことを論ぜられたり。

●神戸市史資料展覽會概況

神戸市は去る五月二十一日より二十五日まで湊川勸業館に於て市史資料展覽會を開催せり。展覧品は神戸に關する歴史的著述其の外各時代の資料を三十類に分ち最近の發見にかゝる兵庫附近の條里圖斷簡を始め約千餘點ありたり。

會 報

編纂會 六月三日午後二時より陳列館貴賓室にて開催三浦西田評議員中村桑原植村下田那波各委員出席第五卷第三號の編纂事務を處理し七時散會せり。

●編輯餘言

本號は原稿編輯して限りある紙數に収録し難き爲め紹介欄を擧げて次號に譲り、猶ほ登載の論文を多くは分割して編纂を了せしが、其後發行所より工賃値上の爲め特に本號頁數の減少を請求し

來りしを以て更に數編の論文を次號に割愛するの已むを得ざるに至れり。こゝに特記して、寄稿者諸彦の諒恕を請ふ。

會員動靜

入 會

朝鮮京城府中樞院編纂課

(右紹介者、桑原親通)

兵庫縣明石郡垂水村山田字西舞子

兵庫縣明石町、明石史談會内

(右紹介者、辰馬悅藏)

朝鮮總督府中樞院編纂課

(右紹介者、荻山秀雄)

大阪府南河内郡駒ヶ谷村大黒

大阪府中河内郡八尾町西郷

(右紹介者、森田博三)

廣島縣芦品郡網引村大字宮内

(右紹介者、天沼俊一)

大阪府四條驛

大阪府豊能郡西郷村字宿野

京都市下立賣西洞院西

(右紹介者、三浦周行)

京都市聖護院御殿内

(右紹介者、中村直勝)

京都帝國大學經濟學部

荻山秀雄

桃木武平

井田竹治

杉本正介

滿野貞吉

片岡英宗

藤井清晃

大高常丸

本間良三郎

齋藤富次

宮城信雅

財部靜治

(右紹介者、西田直二郎)
千葉縣立千葉中學校

(右紹介者、玉泉大梁)

東京市牛込區原町一丁目四九

(右紹介者、清原貞雄)

東京府代々木字山谷一七五

(右紹介者、濱田耕作)

福岡縣山門郡瀬高町下庄

(右紹介者、那波利貞)

死亡

雨森菊太郎

寄贈交換圖書

史學雜誌 卅一の三・四・五

歴史地理 卅五の四・五・六

考古學雜誌 十の七・八・九

國學院雜誌 廿六の三・四・五

飛驒史壇 五の五

六條學報 二二〇・二二二・二二三

東洋哲學 廿七の四・五・六

尙古 七八

經濟論叢 十の二・三・四・五・六

神代史研究

神戸市史資料展覽會記念繪葉書

廣川茂成

竹岡勝也

宮地直一

高巢庄太郎

史學會

日本歴史地理學會

考古學會

國學院大學

飛驒史談會

京都佛敎大學

東洋大學

廣島尙古會

京都帝國大學經濟學部

國文堂書店

神戸市役所